



## **Cisco Unified Presence Release 8.0 インストレーション アップグレード ガイド**

**Installation and Upgrade Guide for Cisco Unified Presence Release 8.0**

2010 年 8 月 3 日

**【注意】シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意**  
([www.cisco.com/jp/go/safety\\_warning/](http://www.cisco.com/jp/go/safety_warning/))をご確認ください。

本書は、米国シスコシステムズ発行ドキュメントの参考和訳です。  
リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。  
あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。

また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコシステムズおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコシステムズおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコシステムズまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任は一切負わないものとします。

CCDE, CCENT, CCSI, Cisco Eos, Cisco Explorer, Cisco HealthPresence, Cisco IronPort, the Cisco logo, Cisco Nurse Connect, Cisco Pulse, Cisco SensorBase, Cisco StackPower, Cisco StadiumVision, Cisco TelePresence, Cisco TrustSec, Cisco Unified Computing System, Cisco WebEx, DCE, Flip Channels, Flip for Good, Flip Mino, Flipshare (Design), Flip Ultra, Flip Video, Flip Video (Design), Instant Broadband, and Welcome to the Human Network are trademarks; Changing the Way We Work, Live, Play, and Learn, Cisco Capital, Cisco Capital (Design), Cisco:Financed (Stylized), Cisco Store, Flip Gift Card, and One Million Acts of Green are service marks; and Access Registrar, Aironet, AllTouch, AsyncOS, Bringing the Meeting To You, Catalyst, CCDA, CCDP, CCIE, CCIP, CCNA, CCNP, CCSP, CCVP, Cisco, the Cisco Certified Internetwork Expert logo, Cisco IOS, Cisco Lumin, Cisco Nexus, Cisco Press, Cisco Systems, Cisco Systems Capital, the Cisco Systems logo, Cisco Unity, Collaboration Without Limitation, Continuum, EtherFast, EtherSwitch, Event Center, Explorer, Follow Me Browsing, GainMaker, iLynX, IOS, iPhone, IronPort, the IronPort logo, Laser Link, LightStream, Linksys, MeetingPlace, MeetingPlace Chime Sound, MGX, Networkers, Networking Academy, PCNow, PIX, PowerKEY, PowerPanels, PowerTV, PowerTV (Design), PowerVu, Prisma, ProConnect, ROSA, SenderBase, SMARTnet, Spectrum Expert, StackWise, WebEx, and the WebEx logo are registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the United States and certain other countries.

All other trademarks mentioned in this document or website are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1002R)

このマニュアルで使用している IP アドレスは、実際のアドレスを示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、および図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスが使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

*Cisco Unified Presence インストール アップグレード ガイド*

© 2010 Cisco Systems, Inc.  
All rights reserved.

Copyright © 2010, シスコシステムズ合同会社.  
All rights reserved.



## CONTENTS

---

### CHAPTER 1

<b>Cisco Unified Presence のインストール準備</b>	<b>1-1</b>
Cisco Unified Presence インストールの前提条件について	1-1
必要なパスワード	1-2
サポートされるサーバ	1-3
ブリッジのアップグレード	1-4
サポートされるブラウザ	1-4
ソフトウェアの制限事項	1-4
VMware Server に Cisco Unified Presence をインストールする際の前提条件について	1-5
VMware のソフトウェア要件	1-5
VMware のハードウェア要件	1-5
サポートされる VMware の設定	1-5
VMware 機能のサポート	1-6
VMware のライセンス要件	1-6
VMware インストールの例外事項	1-7
Cisco UCS B シリーズ ブレード サーバへの移行	1-7
OVF テンプレートのインポート	1-8
インストール前タスクの実行	1-8
参考情報の入手	1-9

---

### CHAPTER 2

<b>Cisco Unified Presence のインストールと設定</b>	<b>2-1</b>
Cisco Unified Presence のインストールおよび設定方法	2-2
基本インストールの開始	2-2
基本インストールの設定	2-4
Cisco Unified Presence パブリッシャ サーバでのシステム時刻の設定	2-6
Cisco Unified Presence の無人インストール用応答ファイルの使用	2-7
既存インストール データの Cisco Unified Presence へのアップロード	2-9

---

### CHAPTER 3

<b>パブリッシャ サーバおよび後続サーバでの Cisco Unified Presence インストール設定の完了</b>	<b>3-1</b>
Cisco Unified Presence パブリッシャ サーバのインストールの完了	3-1
後続の Cisco Unified Presence サーバのインストールの完了	3-3
インストール後のチェックリスト	3-5

APPENDIX A

<b>インストール準備チェックリストと設定</b>	<b>A-1</b>
インストール準備チェックリスト	A-1
フィールド定義：インストール準備チェックリスト	A-5
RAID および BIOS 設定	A-8
Cisco Unified Presence の管理ページにおけるアクセシビリティ設定	A-9
ウィンドウ内でのアイコンへのアクセス	A-9
ウィンドウ内でのボタンへのアクセス	A-10

APPENDIX B

<b>Cisco Unified Presence ソフトウェアの最新リリースへのアップグレード</b>	<b>B-1</b>
ローカル ディスクからのアップグレード	B-1
リモート サーバからのアップグレード	B-2
リモート パッチの取得	B-3



# CHAPTER 1

## Cisco Unified Presence のインストール準備

---

- 「Cisco Unified Presence インストールの前提条件について」 (P.1)
- 「VMware Server に Cisco Unified Presence をインストールする際の前提条件について」 (P.5)
- 「インストール前タスクの実行」 (P.8)
- 「参考情報の入手」 (P.9)

## Cisco Unified Presence インストールの前提条件について

ここでは、Cisco Unified Presence のインストールに関して最もよく寄せられる質問について説明し、ネットワークに Cisco Unified Presence をインストールする *前*に確認が必要な情報を示します。円滑に設定するには「準備チェックリスト」を使用して、インストール前に必要な情報をすべて収集してください。

### 関連項目

付録 A 「インストール準備チェックリスト」

- 「必要なパスワード」 (P.2)
- 「サポートされるサーバ」 (P.3)
- 「ブリッジのアップグレード」 (P.4)
- 「サポートされるブラウザ」 (P.4)
- 「ソフトウェアの制限事項」 (P.4)

## 必要なパスワード

Cisco Unified Presence のインストール中に、次のユーザ名とパスワードを指定する必要があります。

パスワードの種類	説明	トラブルシューティングのヒント
管理者アカウント	<p>次のインターフェイスにログインするには、管理者のユーザ ID とパスワードを作成する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Cisco Unified Operating System の管理インターフェイス</li> <li>• Disaster Recovery System の管理インターフェイス</li> <li>• コマンドライン インターフェイス (CLI)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 管理者ログインは、先頭がアルファベットで 6 文字以上必要です。英数字、ハイフン、およびアンダースコアを使用できます。</li> <li>• 管理者のパスワードを紛失してシステムにアクセスできない場合は、Cisco Unified Communications Operating System の管理ページで、管理者パスワードを復旧できます。</li> <li>• 管理者パスワードのリセットが必要な場合は、CLI を使用します。必要な CLI の構文については、このガイドの付録にある「インストール準備チェックリスト」を参照してください。</li> </ul>

パスワードの種類	説明	トラブルシューティングのヒント
アプリケーション ユーザ アカウント	Cisco Unified Presence の管理インターフェイスにログインするには、アプリケーション ユーザ ID とパスワードを作成する必要があります。	アプリケーション ユーザ パスワードのリセットが必要な場合は、CLI を使用します。必要な CLI の構文については、このガイドの付録にある「インストール準備チェックリスト」を参照してください。
セキュリティ パスワード	インストールする Cisco Unified Presence サーバ用に、Cisco Unified Communications Manager からセキュリティ パスワードを取得する必要があります。 Cisco Unified Presence に設定するセキュリティ パスワードは、Cisco Unified Communications Manager Publisher サーバで使用されるパスワードと同一にする必要があります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Cisco Unified Communications Manager のセキュリティ パスワードを紛失した場合は、Cisco Unified Communications Manager サーバでパスワードを確認できません。</li> <li>• インストール後の導入ウィザードで、Cisco Unified Communications Manager セキュリティ パスワードをリセットできます。このウィザードは、Cisco Unified Presence の管理機能に初めてログインしたときに表示されます。</li> <li>• Cisco Unified Presence の管理ページに初めてログインした後に Cisco Unified Communications Manager セキュリティ パスワードをリセットするには、Cisco Unified Presence の管理ページで [システム (System)] &gt; [CUCM パブリッシャ (CUCM Publisher)] の順に選択します。</li> </ul>

## サポートされるサーバ

Cisco Unified Presence をインストールする前に、次の手順に従ってください。

- 使用するハードウェアを確認し、サーバがサポートされていることを確認する必要があります。Cisco Unified Presence のリリースをサポートしているサーバについては、次の URL にある『*Hardware and Software Compatibility Information for Cisco Unified Presence*』を参照してください。  
[http://www.cisco.com/en/US/products/ps6837/products\\_device\\_support\\_tables\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/ps6837/products_device_support_tables_list.html)
- ネットワークで Cisco Unified Presence マルチノード機能を設定する場合は、次の URL にある『*Deployment Guide for Cisco Unified Presence*』のマルチノード ハードウェアの推奨事項、およびインストールとアップグレード情報を参照してください。  
[http://www.cisco.com/en/US/products/ps6837/products\\_installation\\_and\\_configuration\\_guides\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/ps6837/products_installation_and_configuration_guides_list.html)

## ブリッジのアップグレード

Cisco Unified Presence Release 8.0 では次のハードウェアがサポートされません。

- MCS-7825-H1-IPC1
- MCS-7825-I1-IPC1
- MCS-7835-H1-IPC1
- MCS-7835-I1-IPC1
- MCS-7845-H1-IPC1
- MCS-7845-I1-IPC1

Cisco Unified Presence には、ここにリストされている製造中止となったハードウェアからサポート対象のハードウェアへの移行を希望するお客様に、ブリッジアップグレードが用意されています。ブリッジアップグレードにより、製造中止となったハードウェアに DRS バックアップを作成できるようになります。Cisco Unified Presence をサポート対象ハードウェアに新規インストールした後で、この DRS バックアップをサポート対象ハードウェアに復元できます。

ここにリストされている製造中止となったハードウェアでアップグレードしようとする、Cisco Unified Presence はインターフェイスと CLI に警告を表示します。また、Cisco Unified Presence では、サーバでの DRS バックアップの作成機能だけがサポートされていることが通知されます。

### 関連項目

- 『*Disaster Recovery System Administration Guide*』

## サポートされるブラウザ

Cisco Unified Presence の管理ページ、Cisco Unified Serviceability、および Cisco Unified Communications Operating System の管理ページの各インターフェイスにアクセスするには、Microsoft Internet Explorer バージョン 6.0 以降あるいは Mozilla Firefox バージョン 3.0 以降を使用する必要があります。

## ソフトウェアの制限事項

Cisco Unified Presence は、シスコシステムズが承認したソフトウェアだけをアップロードおよび処理できます。サードパーティの Linux または Windows ベースのソフトウェアアプリケーションを、Cisco Unified Presence にインストールしたり使用することはできません。Cisco Unified Operating System の管理ページで、有効なソフトウェアのインストールおよびアップグレードを実行してください。

# VMware Server に Cisco Unified Presence をインストールする際の前提条件について

- 「VMware のソフトウェア要件」 (P.5)
- 「VMware のハードウェア要件」 (P.5)
- 「サポートされる VMware の設定」 (P.5)
- 「VMware 機能のサポート」 (P.6)
- 「VMware のライセンス要件」 (P.6)
- 「VMware インストールの例外事項」 (P.7)
- 「Cisco UCS B シリーズ ブレード サーバへの移行」 (P.7)
- 「OVF テンプレートのインポート」 (P.8)

## VMware のソフトウェア要件

VMware のソフトウェア要件は次のとおりです。

- Cisco Unified Presence Release 8.0
- VMware ESXi Release 4.0



(注)

VMware 上で Cisco Unified Presence を実行するには、ESX ではなく ESXi を使用するようになっています。ただし、ブレードサーバは VMware ESX クラスタの一部にすることができます。

「サポートされる VMware の設定」 (P.5) に記載されているサポート対象の VMware 仕様のいずれかを使用すると、Cisco Unified Presence Release 7.0(5) 以降から Cisco Unified Presence Release 8.0 に VMware 上でアップグレードできます。

## VMware のハードウェア要件

Cisco Unified Presence は、Cisco UCS B シリーズ ブレード サーバだけで VMware をサポートします。

Media Convergence Server (MCS) から Cisco UCS B シリーズ ブレード サーバでの VMware 上への Cisco Unified Presence の移行に関する詳細については、「Cisco UCS B シリーズ ブレード サーバへの移行」 (P.7) を参照してください。

## サポートされる VMware の設定

表 1-1 に、VMware サーバ上の Cisco Unified Presence の推奨（最小）仕様を示します。

表 1-1 VMware の推奨仕様

	ユーザ	vCPU	RAM	vDisk
仕様 1 :	2500	2	4 GB	1 x 80GB
仕様 2 :	5000	4	4 GB	2 x 80GB

## VMware Server に Cisco Unified Presence をインストールする際の前提条件について

事前設定された仮想マシンをインポートする場合、シスコでは、事前定義された CPU 情報、ディスク情報および RAM 情報が含まれる VM 仕様ごとに、OVM テンプレートを提供しています。OVF テンプレートは Cisco.com からダウンロードする必要があります。Cisco.com の OVF テンプレートの場所については、『Release Notes for Cisco Unified Presence』を参照してください。

Cisco Unified Presence は、インストール中に、ハードウェア チェックを実行します。このチェックでは、サポートされる VMware サーバ プラットフォーム タイプを使用しているかどうかと、VMware サーバが最小仕様を満たしているかどうかを確認されます。サポートされる VMware 設定を実行していない場合、Cisco Unified Presence は、サポート対象の設定ではないことと、この設定を実働環境では使用できず、ライセンスも受けられないことを示す警告を表示します。

## 関連項目

- 『Release Notes for Cisco Unified Presence』
- 「OVF テンプレートのインポート」(P.8)

## VMware 機能のサポート

表 1-2 に、Cisco Unified Presence の VMware 機能サポートを示します。

表 1-2 VMware 機能のサポート

VMware 機能	サポートの有無
VMotion	なし  (注) Cisco は VM の終了と、その後の別のブレードサーバでのリブートをサポートします。ブレードサーバをメンテナンス モードに設定する場合、これが役立つことがあります。
SVmotion	なし
スナップショット	なし
Data Recovery Manager	なし
Fault Tolerance	なし
Consolidated Backup	なし
ハイ アベイラビリティ	あり
Site Recovery Manager	あり  (注) このパラメータに関連付けられたすべてのサーバは、同じサーバエリア ネットワーク (SAN) に配置されている必要があります。

## VMware のライセンス要件

VMware サーバで実行される Cisco Unified Presence のライセンスを取得するには、サーバのライセンス MAC 値が必要です。[Cisco Unified OS の管理 (Cisco Unified OS Administration)] > [表示 (Show)] > [システム (System)] の順に選択するか、[表示 (Show)] > [ネットワーク (Network)] の順に選択して、ライセンス MAC 値を表示します。

Cisco Unified Presence ライセンスの取得方法の詳細については、『*Deployment Guide for Cisco Unified Presence*』を参照してください。

Cisco Unified Presence 8.0 でサポートされるハードウェアへのブリッジアップグレードを実行するには、VMware の新規ライセンス MAC 値で、新規サーバおよびソフトウェアバージョンのライセンスファイルを要求する必要があります。これを実行するには、ご使用のライセンスの「rehost」を要請する電子メールを [licensing@cisco.com](mailto:licensing@cisco.com) まで送信してください。この手順の詳細については、『*Deployment Guide for Cisco Unified Presence*』を参照してください。

#### 関連項目

- 「ブリッジのアップグレード」(P.4)
- 『*Deployment Guide for Cisco Unified Presence*』

## VMware インストールの例外事項

Cisco Unified Presence を VMware 仮想マシンにインストールする場合は、Cisco Unified Presence を物理サーバにインストールする場合と同じ手順に従ってください。ただし、次の例外事項があります。

- インストールに失敗すると、Cisco Unified Presence のインストール ログが VMware サーバのシリアルポートを介してファイルにダンプされます。Cisco Unified Presence のインストール ログは USB キーへはダンプできません。シリアルポートを VMware サーバに設定する必要があります。具体的には、Cisco Unified Presence が ASCII テキストをダンプできるファイルにシリアルポートをリンクする必要があります。VMware サーバの電源がオフのときに、シリアルポートを設定する必要があります。そのため、VMware サーバでこの設定を実施した後で、インストールを開始するようにしてください。
- Cisco Unified Presence は、VMware サーバでの USB テープドライブへのバックアップをサポートしません。

## Cisco UCS B シリーズ ブレード サーバへの移行

Cisco Unified Presence は、Cisco UCS B シリーズ ブレード サーバ上の VMware をサポートしています。Media Convergence Server (MCS) から Cisco UCS B シリーズ ブレード サーバ上の Cisco Unified Presence VMware に移行する場合、次の（高度な）手順を実行してください。

1. Cisco Unified Operating System インターフェイスを使用して、MCS サーバを Cisco Unified Presence Release 8.x にアップグレードします。このリリースに関する特定のアップグレード情報については、リリース ノートを参照してください。
2. MCS サーバで DRS バックアップを実行します。Cisco Unified Presence は、VMware サーバでの USB テープドライブへのバックアップをサポートしません。
3. OVF テンプレートをインポートして、UCS サーバに仮想マシンを作成します。
4. MCS サーバの電源を切ります。
5. Cisco Unified Presence Release 8.x を仮想マシンにインストールし、DRS の復元を実行して、MCS サーバからバックアップされたデータを Cisco Unified Presence UCS サーバ上の VMware に復元します。Cisco Unified Presence は、VMware サーバでの USB テープドライブの復元をサポートしません。
6. ライセンスの MAC 値を取得し、次に VMware サーバ用に新しいライセンスを要求します。
7. 新しいライセンスをサーバにアップロードします。
8. 無効となった元のライセンス ファイルを手動で削除し、ライセンス マネージャを再起動します。

**関連項目**

- 『*Release Notes for Cisco Unified Presence*』
- 『*Cisco Unified Operating System Maintenance Guide for Cisco Unified Presence*』
- 『*Changing the IP Address and Hostname for Cisco Unified Presence*』
- 『*Disaster Recovery System Administration Guide*』
- 「[OVF テンプレートのインポート](#)」 (P.8)

## OVF テンプレートのインポート

**開始する前に**

Cisco.com での OVF テンプレートの場所のリンクを取得する方法については、『*Release Notes for Cisco Unified Presence*』を参照してください。

**手順**

- 
- ステップ 1** Cisco.com から CUP 2500 user v1 vmv7.ova などの OVF テンプレートをダウンロードします。
  - ステップ 2** 同じコンピュータで vSphere クライアントを実行します。
  - ステップ 3** [Hosts and Clusters] ウィンドウで、[File] > [Deploy OVF Template] の順に選択します。
  - ステップ 4** [Deploy from file] を選択します。
  - ステップ 5** CUP\_2500\_user\_v1.0\_vmv7.ova などの以前ダウンロードした OVF テンプレートを参照して選択します。
  - ステップ 6** [Next] を選択します。
  - ステップ 7** 新たに作成された仮想マシンを右クリックして [Edit Settings] を選択します。
  - ステップ 8** [Options] > [Boot Options] を選択します。
  - ステップ 9** [Force BIOS Setup] をオンにします。
  - ステップ 10** 仮想マシンの電源をオンにします。
  - ステップ 11** [Boot] メニューを選択し、CD-ROM ドライブが最初のドライブとして選択されていることを確認します。F10 を押して起動の順序保存します。
- 

**関連項目**

- 『*Release Notes for Cisco Unified Presence*』
- 「[サポートされる VMware の設定](#)」 (P.5)

## インストール前タスクの実行

**開始する前に**

このガイドの付録を参照してください。付録には、インストール前に収集する情報を記載した準備チェックリストや、各データタイプをインストール後に変更可能かどうかの情報があります。このチェックリストを印刷して設定データを記入し、インストール中に参照することを推奨します。

インストール前のタスク	特記事項
<b>ステップ 1</b> Cisco Unified Presence サーバが Cisco Unified Communications Manager パブリッシャ サーバにネットワーク アクセスできることを確認します。	Cisco Unified Communications Manager に、他のサーバから ping を実行します。
<b>ステップ 2</b> 対応する Cisco Unified Communications Manager サーバで Cisco AXL Web Service が起動していることを確認します。	Cisco Unified Serviceability で [Tools] > [Service Activation] の順に選択します。
<b>ステップ 3</b> DNS を使用する場合は、DNS サーバで新しい Cisco Unified Presence サーバのホスト名を設定したことを確認します。また、DNS サーバが、Cisco Unified Communications Manager パブリッシャ サーバのホスト名、および他の Cisco Unified Presence サーバ（存在する場合）のホスト名を解決できることを確認します。	 <b>注意</b> Cisco Unified Presence と Cisco Unified Communications Manager で同じ DNS サーバを使用することを推奨します。異なる DNS サーバを使用すると、システムの動作に異常が発生する場合があります。Cisco Unified Presence でマルチノード機能を使用する場合は、DNS 設定オプションについて『 <i>Deployment Guide</i> 』を参照してください。
<b>ステップ 4</b> Cisco Unified Presence 新規インストール後に、システムはデフォルトで 90 日間の評価モードになります。Cisco Unified Presence を実稼動モード（試用版の評価期間の終了前または終了後）に移行できるようにするには、まず Cisco Unified Presence の新規インストールについて正しいサーバライセンスを取得する必要があります。サーバライセンスは、Cisco Unified Presence サーバをサポートし、Presence Engine およびプロキシサービスのサービス アクティベーションを可能にします。	Cisco.com の License Generation Web ツールを使用すると、必要な単位数のライセンス ファイルを生成できます。  Cisco Unified Presence ライセンス要件とライセンス取得の詳細については、『 <i>Deployment Guide for Cisco Unified Presence</i> 』を参照してください。
<b>ステップ 5</b> Cisco Unified Presence Release 8.0 へのアップグレードを実行するには、ソフトウェア バージョン（アップグレード）ライセンスを取得してください。  これは、Cisco Unified Presence Release 8.0 へのブリッジアップグレードを実行する場合にも当てはまります。	Cisco Unified Presence ライセンス要件とライセンス取得の詳細については、『 <i>Deployment Guide for Cisco Unified Presence</i> 』を参照してください。

#### 関連項目

- [付録 A 「インストール準備チェックリスト」](#)
- [「ブリッジのアップグレード」\(P.4\)](#)
- 『*Deployment Guide for Cisco Unified Presence*』

## 参考情報の入手

インストールのプロセスと前提条件についてよく理解するため、このマニュアルの内容すべてに目を通すことを強く推奨します。さらなる詳細については、次の Cisco Unified Presence に関するガイドを参照してください。

- *Cisco Unified Presence* の管理ページのオンライン ヘルプ  
Cisco Unified Presence の設定、保守、および管理方法を順を追って説明します。
- 『*Hardware and Software Compatibility Information for Cisco Unified Presence*』

現在使用している Cisco Unified Presence と互換性のあるハードウェア サーバおよびソフトウェア について説明しています。

- 『*Port Usage Information for Cisco Unified Presence*』  
Cisco Unified Presence リリースのポート情報について説明しています。
- 『*Changing the IP Address and Hostname for Cisco Unified Presence*』  
Cisco Unified Presence サーバの IP アドレスまたはホスト名の変更手順について説明しています。
- 『*Cisco Unified Operating System Maintenance Guide for Cisco Unified Presence*』  
ソフトウェアのアップグレード情報、およびオペレーティング システムやコマンドライン インターフェイスを介して利用できるユーティリティについて説明しています。
- 『*Deployment Guide for Cisco Unified Presence*』  
Cisco Unified Presence および Cisco Unified Communications Manager の設定手順の概要について説明しています。また、Cisco Unified Presence と Microsoft Live Communications Server、Microsoft Active Directory、および Microsoft Office Communicator との統合に関する情報を記載しています。また、マルチノードでの導入に対応した戦略、および高可用性のためのシスコの推奨事項も含まれています。
- 『*Serviceability Configuration and Maintenance Guide for Cisco Unified Presence*』  
Cisco Unified Presence のサービスアビリティについて説明しています。アラーム設定、トレース設定、およびその他のレポートについても順を追って説明しています。
- 『*Disaster Recovery System Administration Guide*』  
バックアップの設定方法、Cisco Unified Presence データのバックアップ方法、およびデータの復元方法について説明しています。
- Cisco Unified Communications Manager の詳細については、次の URL を参照してください。  
[http://cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/tsd\\_products\\_support\\_series\\_home.html?q=](http://cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/tsd_products_support_series_home.html?q=)



## CHAPTER 2

# Cisco Unified Presence のインストールと設定

Cisco Unified Presence インストール全体のプロセスには、サーバのタイプに応じて、サーバ 1 台あたり 45 分から 120 分を要します（インストール前後の作業を除く）。

Cisco Unified Presence は、サーバにプレインストールされている場合もあります。インストール中に、基本インストールまたは最新のサービス リリースへのアップグレードを実行できます。ソフトウェアのインストール開始後、次の表に示すオプションのいずれかを選択する必要があります。

インストール オプション	説明
インストール前	Cisco Unified Presence サーバにソフトウェアがプレインストールされている場合、インストール ディスクは不要です。インストール ルーチンは、基本インストールと同様に実行されます。ただしインストール ウィザードではインタラクティブに設定データの输入を求めるプロンプトが表示され、输入を処理するために設定ステップが一時停止します。
基本インストール	Cisco Unified Presence の基本インストールを表します。インストール ディスクからソフトウェアをインストールします。
追加リリース	システムを設定する前に、インストール ディスクに含まれているソフトウェアのバージョンを最新のサービス リリースにアップグレードできます。 <b>(注)</b> このアップグレード オプションの使用は推奨しません。このパッチ方式での Cisco Unified Presence の最新リリースへのアップグレードが必要になることはほとんどありません。アップグレードが必要な場合は、実行する前に「付録 B」を参照してください。



**(注)** インストール中に表示されるウィンドウの情報については、Space バーを押して [ヘルプ (Help)] を選択してください（可能な場合）。

- 「Cisco Unified Presence のインストールおよび設定方法」(P.2)
- 「Cisco Unified Presence の無人インストール用応答ファイルの使用」(P.7)
- 「既存インストール データの Cisco Unified Presence へのアップロード」(P.9)

# Cisco Unified Presence のインストールおよび設定方法

- 「基本インストールの開始」(P.2)
- 「基本インストールの設定」(P.4)
- 「Cisco Unified Presence パブリッシャ サーバでのシステム時刻の設定」(P.6)

## 基本インストールの開始

### 開始する前に

- 「インストール準備チェックリスト」に記載されている、Cisco Unified Presence インストールの前提条件および必要な作業を完了してください。
- 新しいサーバに Cisco Unified Presence がプレインストールされている場合は、その後の製品リリースでサーバを再イメージ化する場合を除いて、DVD からインストールする必要はありません。既存のインストール データの入力に進んでください。

### 手順

- ステップ 1** インストール DVD をトレイに挿入し、サーバを再起動して DVD から起動します。
- ステップ 2** サーバのブート シーケンスの完了後、[Yes] を選択すると、メディア チェックが実行されます。
- ステップ 3** メディア チェックの完了後、[Media Check Result] ウィンドウで次のいずれかの操作を実行します。

メディア チェックの結果	操作	結果
成功	[OK] を選択して、インストールを続行します。	[OK] を選択すると、システム インストーラはさまざまなハードウェア チェックを実行し、システムが Cisco Unified Presence 用に正しく設定されているかを確認します。
失敗	次の操作を実行します。 <b>a.</b> もう一度 Cisco.com からダウンロードするか、シスコから別のディスクを直接入手してください。 <b>b.</b> [OK] を選択して、インストールを続行します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>- まず、インストール プロセスとしてドライバが正しいことを確認します。次の警告が表示されることがあります。 「Drivers not found, do you want to install manually?」 インストールを続行するには、[Yes] をクリックします。</li> <li>- 次に、サポートされるハードウェア プラットフォームが存在するかどうかを確認します。サーバがハードウェア要件を完全には満たしていない場合、インストール プロセスは致命的なエラーで失敗します。このインストールの失敗が誤りであると思われる場合はエラーをキャプチャし、シスコのサポートに報告してください。</li> </ul> <p>ハードウェア チェックが完了すると、[Product Deployment Selection] ウィンドウが表示されます。</p>

- ステップ 4** [OK] を選択して Cisco Unified Presence をインストールします。

次に、インストール プロセスは RAID 設定および BIOS 設定を確認します。インストール プロセス中にハードウェア設定を変更した場合、システムを再起動するようにプロンプトが表示されます。

Vmware サーバに Cisco Unified Presence をインストールする場合、このチェックは行われません。

**ステップ 5** [Proceed with Install] ウィンドウで、次のいずれかの操作を実行します。

- a. インストールを続行するには、[Yes] を選択します。
- b. インストールをキャンセルするには、[No] を選択します。



**注意**

インストールの続行に問題がないことを確認できるまでは、[Yes] を選択しないでください。[Proceed with Install] ウィンドウで [Yes] を選択した場合、ハードドライブに存在するすべてのデータが上書きされ破棄されます。[Proceed with Install] ウィンドウに、ハードドライブにある Cisco Unified Presence ソフトウェアのバージョン（存在する場合）、および DVD のバージョンが表示されます。

**ステップ 6** [Platform Installation] ウィンドウで、次のいずれかの操作を実行します。

目的	操作
この時点でソフトウェアのインストールと設定を行う	<ol style="list-style-type: none"> <li>a. [Proceed] を選択します。</li> <li>b. <a href="#">ステップ 7</a> に進みます。</li> </ol>
ソフトウェアを今インストールし、設定は後で行う	<ol style="list-style-type: none"> <li>a. [Skip] を選択します。</li> <li>b. 既存のインストール データの入力に進んでください。システムが再起動します。</li> </ol>

**ステップ 7** [Apply Patch] ウィンドウで、次のいずれかの操作を実行します。

目的	操作
最新リリースにアップグレードせずに、DVD のソフトウェアをインストールする	[No] を選択します。
ソフトウェアの最新リリースにアップグレードする	<ol style="list-style-type: none"> <li>a. [Yes] を選択します。</li> <li>b. 最新のソフトウェア リリースへのアップグレードに進みます。</li> </ol> <p><b>(注)</b> このアップグレード オプションの使用は推奨しません。この方式での Cisco Unified Presence の最新リリースへのアップグレードが必要になることはほとんどありません。</p>

**ステップ 8** [Basic Install] ウィンドウで [Continue] を選択します。

**関連項目**

- [付録 A 「インストール準備チェックリスト」](#)
- [付録 A 「RAID および BIOS 設定」](#)
- [付録 B 「Cisco Unified Presence ソフトウェアの最新リリースへのアップグレード」](#)

**次の手順**

- 「基本インストールの設定」(P.4) または
- 「既存インストールデータの Cisco Unified Presence へのアップロード」(P.9)

## 基本インストールの設定

### 開始する前に

- 前の項で説明したとおり、Cisco Unified Presence DVD をロードして基本インストールを開始します。
- Cisco Unified Presence の設定はインストール要件に固有で、一部のフィールドはオプションです。たとえば、固定 IP アドレス値と DNS を DHCP で設定できます。

### 手順

**ステップ 1** [Timezone Configuration] ウィンドウで、↑キーまたは↓キーを使用して次の手順に従います。

- サーバの適切な時間帯を選択します。
- [OK] を選択します。

**ステップ 2** [Auto Negotiation Configuration] ウィンドウで、次のいずれかの操作を実行します。

目的	操作
自動ネゴシエーションを使用して、ネットワークインターフェイスカード (NIC) の速度およびデュプレックスを自動的に設定する	[Yes] を選択します。 <b>(注)</b> このオプションを使用するには、ハブまたはイーサネットスイッチが自動ネゴシエーションをサポートしている必要があります。
自動ネゴシエーションを無効にする	<ol style="list-style-type: none"> <li>[No] を選択します。</li> <li>[Duplex Configuration] ウィンドウで、次の操作を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>– 手動で、NIC の適切な速度およびデュプレックス設定を選択します。</li> <li>– [OK] を選択して続行します。</li> </ul> </li> </ol>

**ステップ 3** 最大転送単位 (MTU) の値を次のように設定します。

目的	操作
MTU サイズをデフォルトの OS 設定のままにして変更しない	[No] を選択します。
MTU サイズをデフォルトの OS 設定から変更する	[Yes] を選択します。 <b>(注)</b> Cisco Unified Presence のこの値を変更する場合は、Cisco Unified Communications Manager の値と同一にする必要があります。これらの値が同一でない場合は、インストールに失敗します。

**ステップ 4** [DHCP Configuration] ウィンドウで、次のいずれかの操作を実行します。

目的	操作
DHCP を使用する	a. [Yes] を選択します。 b. <a href="#">ステップ 7</a> に進みます。
サーバに固定 IP アドレスを設定する	a. [No] を選択します。 b. <a href="#">ステップ 5</a> に進みます。

**ステップ 5** 固定 IP アドレス値の設定が必要な場合は、[Static Network Configuration] ウィンドウで、次の操作を実行します。

- a. 固定ネットワーク設定値を入力します。
- b. [OK] を選択します。

**ステップ 6** DNS の設定が必要な場合は、[DNS Client Configuration] ウィンドウで、次の操作を実行します。

- a. [Yes] を選択し、DNS クライアント情報を入力します。
- b. [OK] を選択します。

**ステップ 7** 管理者のログイン情報およびパスワード情報を入力します。

**ステップ 8** [Certificate Information] ウィンドウで、次の操作を実行します。

- a. 証明書署名要求情報を入力します。この情報には、社名、部署名、場所、都道府県、国が含まれます。
- b. [OK] を選択して続行します。

**ステップ 9** インストールするサーバに応じて、次のいずれかの手順を実行します。

サーバタイプ	操作
パブリッシャ サーバ：ネットワークに最初にインストールする Cisco Unified Presence サーバ	a. [Yes] を選択します。 b. <a href="#">「Cisco Unified Presence パブリッシャ サーバでのシステム時刻の設定」(P.6)</a> に記載されている Cisco Unified Presence パブリッシャ サーバのシステム時刻の設定に進みます。
サブスクライバ サーバ：Cisco Unified Presence クラスタ内の後続サーバ	a. [No] を選択します。 b. Cisco Unified Presence パブリッシャ サーバでの後続の Cisco Unified Presence サーバの設定に進みます。

#### 関連項目

- [「基本インストールの開始」\(P.2\)](#)
- [付録 A 「インストール準備チェックリスト」](#)

#### 次の手順

- [「Cisco Unified Presence パブリッシャ サーバでのシステム時刻の設定」\(P.6\)](#) または
- [「後続の Cisco Unified Presence サーバのインストールの完了」\(P.3\)](#)

## Cisco Unified Presence パブリッシャ サーバでのシステム時刻の設定

### 開始する前に

- 前の項で示したとおり、基本インストールを開始して設定します。Cisco Unified Presence パブリッシャ サーバのインストール時には、ハードウェア クロックを使用して手動でシステム時刻を設定するか、または最大 5 つの外部 NTP アドレスを割り当てることができます。
- パブリッシャ サーバのシステム時刻を正確に設定するには、Cisco Unified Communications Manager パブリッシャだけを NTP サーバとして設定することを推奨します。Cisco Unified Communications Manager パブリッシャがクラスタ内の唯一の NTP サーバとして設定されていると、クラスタ内の後続サーバは Cisco Unified Communications Manager パブリッシャ サーバから時刻を取得します。
- Cisco Unified Communications Manager パブリッシャは NTP サーバのままにすることを強く推奨します。それ以外の NTP サーバを使用する場合は、そのサーバが Stratum 9 以上の Stratum 範囲 9 (最下層) ~ 1 (最上層) にあることを確認してください。

### 手順

**ステップ 1** [Network Time Protocol Client Configuration] ウィンドウで、次のように正しいシステム時刻を設定します。

設定の対象	操作
外部 NTP サーバ	<p>a. [Yes] を選択します。</p> <p>b. 1 台以上の NTP サーバの IP アドレス、NTP サーバ名、または NTP サーバプール名を入力します。</p> <p>(注) ネットワークに DNS が存在しない場合は、ホスト名を IP アドレスに自動的に解決することができないため、IP アドレスを入力する必要があります。</p> <p>c. インストールを続行するには、[Proceed] を選択します。</p> <p>(注) 最大 5 台の NTP サーバを設定できます。3 台以上使用することを推奨します。システムは NTP サーバに接続して、自動的にハードウェア クロックの時刻を設定します。[Test] ボタンが表示されている場合は、[Test] をクリックして NTP サーバにアクセスできるかどうかを確認できます。</p>
システム時刻 (手動)	<p>a. [No] を選択します。</p> <p>b. 適切な日時を入力して、ハードウェア クロックを設定します。</p> <p>c. インストールを続行するには、[OK] を選択します。</p>

**ステップ 2** [Security Password] ウィンドウにセキュリティ パスワードを入力します。

- ステップ 3** SMTP ホストを設定する場合は、次の操作を実行します。
- [Yes] を選択します。
  - SMTP の場所を入力します。
- ステップ 4** [Application User Configuration] ウィンドウで、次の操作を実行します。
- アプリケーション ユーザのユーザ名とパスワードを入力します。
  - [OK] を選択します。
- ステップ 5** [Platform Configuration Confirmation] ウィンドウで、次のいずれかの操作を実行します。
- [OK] を選択して、ソフトウェアのインストールを続行します。[OK] を選択すると、プラットフォームの設定を変更できなくなります。
  - 設定を変更するには、[Back] を選択します。
- ステップ 6** インストール処理が完了すると、管理者のユーザ ID とパスワードを使用してログインするようにプロンプトが表示されます。

#### トラブルシューティングのヒント

- セキュリティ パスワードは、Cisco Unified Communications Manager パブリッシャのパスワードと同一にする必要があります。Cisco Unified Presence の管理に初めてログインしたときに、セキュリティ パスワードを変更できます。
- 一部のオペレーティング システム機能を使用するには SMTP サーバの設定が必要です。SMTP サーバは、Cisco Unified Operating System のインターフェイスまたは CLI を使用して、後で設定することもできます。

#### 関連項目

- 付録 A 「インストール準備チェックリスト」

#### 次の手順

「Cisco Unified Presence パブリッシャ サーバのインストールの完了」(P.1)

## Cisco Unified Presence の無人インストール用応答ファイルの使用

Cisco Unified Presence は、インストール プロセス中に定義済みの設定値を読み取る XML 応答ファイルを使用して、無人インストールを実行できます。

Cisco Unified Communications Answer File Generator は、Cisco Unified Presence の無人インストール用の応答ファイルを生成する Web アプリケーションです。個々の応答ファイルは、インストール プロセス中に、Cisco Unified Presence の DVD に付属の USB キーまたはフロッピー ディスクにコピーされます。

応答ファイルは Cisco Unified Presence のフレッシュ インストールだけに使用可能で、アップグレードには使用できません。Cisco Unified Communications Answer File Generator には、次の URL からアクセスしてください。

[http://www.cisco.com/web/cuc\\_afg/index.html](http://www.cisco.com/web/cuc_afg/index.html)

この Web アプリケーションでは、次の機能がサポートされています。

- パブリッシャ サーバとすべての後続サーバにおける無人インストール用応答ファイルの同時生成と保存
- データ エントリの構文的な検証
- Internet Explorer バージョン 6.0 以降および Mozilla バージョン 1.5 以降のサポート
- オンライン ヘルプおよびマニュアルの表示

USB キーを Cisco Unified Presence の無人インストールの実行に使用する場合は、必要に応じて、Windows XP のディスクの管理ユーティリティを使用して USB キーを FAT32 ファイル システムに再フォーマットします。USB キーの記憶容量が大きく（たとえば 1 GB）、FAT ファイル システムでフォーマットされている場合は、再フォーマットが必要です。

### 開始する前に

- この手順を実行するには、管理者または管理者グループのメンバーになることが必要になる場合があります。
- DHCP クライアントがパブリッシャ サーバで使用されていて、後続サーバの応答ファイルも生成されている場合、パブリッシャ サーバの IP アドレスを指定する必要があります。

### 手順

- 
- ステップ 1** Windows XP コンピュータの USB スロットに USB キーを挿入します。
- ステップ 2** 次の操作を実行します。
- a. [スタート (Start)] > [コントロール パネル (Control Panel)] > [管理ツール (Administrative Tools)] の順に選択します。
  - b. [コンピュータの管理 (Computer Management)] をダブルクリックします。
- ステップ 3** 次の操作を実行します。
- a. [記憶域 (Storage)] ツリーを展開します。
  - b. [ディスクの管理 (Disk Management)] を選択します。
- ステップ 4** [リムーバブル ディスク (Removable Disk)] アイコンを右クリックします。
- ステップ 5** [フォーマット (Format)] を選択します。
- ステップ 6** このパーティションをフォーマットするかどうかの確認を求められたら、[はい (Yes)] をクリックします。
- ステップ 7** 次の操作を実行します。
- a. [ファイル システム (File System)] を選択します。
  - b. リスト ボックスから [FAT32] を選択します。
- ステップ 8** [OK] を選択します。
- ステップ 9** ボリュームのフォーマットを確認するプロンプトが表示されたら、もう一度 [OK] を選択します。
- 

### 次の手順

「既存インストール データの Cisco Unified Presence へのアップロード」(P.9)

# 既存インストール データの Cisco Unified Presence へのアップロード

## 開始する前に

次の条件に該当する場合は、Cisco Unified Presence 基本インストールの設定をここから開始します。

- 既存のインストール データを応答ファイルにアップロード済みである。
- サーバに Cisco Unified Presence がプレインストールされている。
- Cisco Unified Presence ソフトウェアのインストールを選択したが、設定は後で行うため、プラットフォームのインストール ウィザードのウィンドウで [Skip] を選択した。

## 手順

- ステップ 1** システムの再起動後、[Pre-existing Installation Configuration] ウィンドウが表示されます。
- Answer File Generator で生成された既存の設定情報がフロッピー ディスクか USB キーに格納されている場合は、ここでディスクまたは USB キーを挿入して、[Continue] を選択します。インストール プロセス中に、設定情報がインストール ウィザードに読み取られます。
- ステップ 2** プラットフォームのインストール ウィザードで [Proceed] を選択します。
- ステップ 3** [Apply Additional Release] ウィンドウで、次のいずれかの操作を実行します。

目的	操作
アップグレードせずにソフトウェアをインストールする	a. [No] を選択します。
ソフトウェアの最新リリースにアップグレードする	a. [Yes] を選択します。 b. 追加リリースの適用に進みます。 <b>(注)</b> このアップグレード オプションの使用は推奨しません。このパッチ方式での Cisco Unified Presence の最新リリースへのアップグレードが必要になることはほとんどありません。アップグレードする場合は、このオプションを選択する前に、ソフトウェア イメージが DVD またはリモート サーバで利用できるかどうか確認してください。

- ステップ 4** [Basic Install] ウィンドウで [Continue] を選択します。

## 関連項目

- [付録 B 「Cisco Unified Presence ソフトウェアの最新リリースへのアップグレード」](#)

## 次の手順

[「基本インストールの設定」 \(P.4\)](#)

■ 既存インストール データの Cisco Unified Presence へのアップロード



## CHAPTER 3

# パブリッシャ サーバおよび後続サーバでの Cisco Unified Presence インストール設定の完了

- 「Cisco Unified Presence パブリッシャ サーバのインストールの完了」(P.1)
- 「後続の Cisco Unified Presence サーバのインストールの完了」(P.3)
- 「インストール後のチェックリスト」(P.5)

## Cisco Unified Presence パブリッシャ サーバのインストールの完了

Cisco Unified Presence クラスタ内には「パブリッシャ」は 1 つだけ存在します。このサーバを最初にインストールします。パブリッシャ サーバを新規インストールした後に一度だけ、Cisco Unified Communications Manager パブリッシャの設定、および Cisco Unified Presence パブリッシャ サーバの AXL 情報の設定を要求されます。

この情報を設定するため、Cisco Unified Presence の新規インストール後に初めて Cisco Unified Presence の管理ページにログインすると、インストール後の導入ウィザードが起動します。



(注) インストール後の導入ウィザードが起動した場合は、初期インストールに成功しています。

### 開始する前に

- インストール後の導入ウィザードは、Cisco Unified Presence の新規インストールの直後に必ず実行してください。また、Disaster Recovery System のデータをバックアップまたは復元する前に実行してください。Cisco Unified Presence をインストールして、インストール後の導入ウィザードの実行前に Disaster Recovery System のデータをバックアップまたは復元しようとする、操作に失敗します。
- インストール後の導入ウィザードは一度しか実行できません。次回、Cisco Unified Presence の管理ページにログインしたときは、アプリケーションが自動的にインストール後の設定が完了していることを検知し、デフォルトで Cisco Unified Presence の管理ウィンドウが表示されます。
- Cisco Unified Communications Manager パブリッシャの IP アドレスを取得します (DNS を使用していない場合)。Cisco Unified Communications Manager の AXL 権限を持つアプリケーションユーザのユーザ ID を取得します。

手順

**ステップ 1** Cisco Unified Presence の管理にログインします。

**ステップ 2** 次のように、インストール後の導入ウィザードを実行します。

ウィンドウ	設定手順
インストール後の導入ウィザードのウィンドウ 1/5 ページ	<p><b>a.</b> [ホスト名 (Hostname) ] フィールドに、Cisco Unified Communications Manager パブリッシャのホスト名を入力します。</p> <p><b>b.</b> (任意) [IP アドレス (IP address) ] フィールドに、Cisco Unified Communications Manager パブリッシャの IP アドレスを入力します。</p> <p> <b>(注)</b> ネットワークに DNS が存在しない場合は、ホスト名を IP アドレスに自動的に解決できないため、IP アドレスを入力する必要があります。DNS を使用してホスト名を IP アドレスに解決できる場合は、IP アドレスを空白にできます。アプリケーションは自動的に IP アドレスを検出します。</p>
インストール後の導入ウィザードのウィンドウ 2/5 ページ	<p><b>a.</b> 適切なアプリケーション ユーザのユーザ ID を入力します。このユーザには、Cisco Unified Communications Manager パブリッシャ サーバに対応した Standard AXL API Access 権限が割り当てられています。</p> <p> <b>(注)</b> デフォルトでは、CCMAdministrator ユーザ ID に Standard AXL API Access 権限が割り当てられています。</p> <p><b>b.</b> AXL パスワードを入力および確認します。</p> <p><b>c.</b> [次へ (Next) ] を選択します。</p>
インストール後の導入ウィザードのウィンドウ 3/5 ページ	<p><b>a.</b> Cisco Unified Presence の初期インストール中に入力したセキュリティ パスワードを変更および確認入力します。Cisco Unified Presence の後続サーバをインストールする際には、これらのサブスクリバ サーバは新規セキュリティ パスワードを使用し、Cisco Unified Presence パブリッシャ サーバのインストール中に使用されたものは使用しないことに注意してください。</p> <p><b>b.</b> [次へ (Next) ] を選択します。</p>
インストール後の導入ウィザードのウィンドウ 4/5 ページ	<p>設定を確認し、次のいずれかの操作を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- エラーを修正するには、[戻る (Back) ] を選択します。</li> <li>- 続行するには、[確認 (Confirm) ] を選択します。</li> </ul>
インストール後の導入ウィザードのウィンドウ 5/5 ページ	<p>次のいずれかの操作を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- Cisco Unified Presence の管理ウィンドウを表示するには、[ホーム (Home) ] を選択します。</li> <li>- Cisco Unified Presence のシステム ダッシュボード ウィンドウを表示するには、[システム ダッシュボード (System Dashboard) ] をクリックします。</li> <li>- システム トポロジ ウィンドウを表示するには、[トポロジ (Topology) ] をクリックします。</li> </ul>

### トラブルシューティングのヒント

- エラーメッセージが表示された場合は、Cisco Unified Communications Manager で AXL が実行されているかどうか、およびユーザ ID とパスワードが正しいかどうかを確認してください。ブラウザを使用して、`http://<<CUCM Hostname>>/axl` と入力します。ユーザ ID とパスワードを入力するようにプロンプトが表示されます。入力した内容が正しいければ、Web ページに AXL が実行中で、要求の受信準備ができていないことの確認が表示されます。
- インストール後のウィザードは一度しか実行できません。この初期設定後に Cisco Unified Communications Manager パブリッシャのアドレスまたは AXL 情報を変更する場合は、Cisco Unified Presence の管理で、[システム (System)] > [CUCM パブリッシャ (CUCM Publisher)] の順に選択します。
- Cisco Unified Presence の後続サーバは、パブリッシャ サーバの設定チェック後、パブリッシャ サーバから Cisco Unified Communications Manager パブリッシャの情報を取得します。
- 製造中止となったハードウェアのアップグレードを実行すると、Cisco Unified Presence から警告が表示されます。Cisco Unified Presence は、製造中止となったハードウェアからのブリッジアップグレードをサポートします。ブリッジアップグレードにより、製造中止となったハードウェアでの DRS バックアップができるようになります。バックアップ後に、サポートされるハードウェアで DRS を復元できます。

### 関連項目

- 『*Configuration and Maintenance Guide for Cisco Unified Presence*』
- 『*Disaster Recovery System Administration Guide*』
- 「ブリッジのアップグレード」(P.4)

### 次の手順

- 「インストール後のチェックリスト」(P.5)

## 後続の Cisco Unified Presence サーバのインストールの完了

この手順は、Cisco Unified Presence クラスタ内の最初のサーバ（パブリッシャ）ではない、後続の（サブスクリバ）サーバをインストールする場合だけに適用されます（ステップ 9 を参照）。

後続の Cisco Unified Presence サーバをインストールするときは、後続サーバを Cisco Unified Presence パブリッシャ サーバと関連付けて、後続サーバのホスト名と IP アドレスを設定する必要があります。新しいサーバにはそれぞれ、Cisco Unified Presence パブリッシャ サーバへのネットワーク アクセスも必要です。

追加の Cisco Unified Presence サーバをインストールする前に、ネットワーク接続性診断ツールを使用してネットワーク接続性の問題を検査するかどうかを確認するプロンプトが表示されます。システムが Cisco Unified Presence でパブリッシャ サーバへのネットワーク アクセスを確認できない場合は、ログを通じて異常点が報告されます。続行する前にサーバの問題を調査する必要がある場合は、設定の途中でプロセスを一時停止できます。

### 開始する前に

- Cisco Unified Presence の基本インストールを開始および設定し、クラスタ内に後続サーバをインストールする場合はここから続行します。

- Cisco Unified Presence でのパブリッシャ サーバの設定が完了し、インストール後の導入ウィザードが正常に実行されたことを確認します。後続サーバをインストールするときは、「最初のノード」としてインストールした元のパブリッシャ サーバを考慮してください。
- Cisco Unified Presence でマルチノード機能を使用し、Cisco Unified Presence 後続サーバの追加を計画している場合、次の作業の実施を推奨します。
  - パブリッシャ ノードのトポロジ ビューで後続サーバを追加してから、後続サーバをインストールしてください。
  - 後続サーバをインストールするまでは、後続サーバをサブクラスタに割り当てないでください。



(注)

Cisco Unified Presence パブリッシャ サーバで後続の各サーバを設定するには、Cisco Unified Presence の管理ページで、[クラスタ (Cluster)] > [トポロジ (Topology)] の順に選択します。[トポロジ (Topology)] ウィンドウでは、一度に複数の後続サーバを追加できます。たとえば、パブリッシャ サーバを含めて 6 台のサーバが存在するマルチノードクラスタをインストールする場合は、Cisco Unified Presence システム トポロジに、5 台の後続サーバを同時に追加できます。

### 手順

- ステップ 1** [First Node Configuration] ウィンドウで、[OK] を選択して続行します。
- ステップ 2** ネットワーク接続性テストの検証が完了してからインストールを続行するには、[No] (デフォルトのオプション) を選択します。
- ステップ 3** パブリッシャ サーバへの正常なネットワーク接続が確認できた場合は、[Continue] をクリックします。
- ステップ 4** [First Node Access Configuration] ウィンドウで、次の情報を入力します。
- Cisco Unified Presence パブリッシャ サーバのホスト名
  - Cisco Unified Presence パブリッシャ サーバの IP アドレス
  - Cisco Unified Presence パブリッシャ サーバにアクセスするためのセキュリティ パスワード
- ステップ 5** [OK] を選択して続行します。
- ステップ 6** SMTP ホストを設定する場合は、[SMTP Host Configuration] ウィンドウで、次の操作を実行します。
- a. [Yes] を選択します。
  - b. SMTP の場所を入力します。
- ステップ 7** [Platform Configuration Confirmation] ウィンドウで、次のタスクを実行します。
- a. ソフトウェアのインストールを開始するには、[OK] を選択します。
  - b. 設定を変更するには、[Back] を選択します。
- ステップ 8** インストール処理が完了すると、管理者のアカウントとパスワードを使用してログインするようにプロンプトが表示されます。

### トラブルシューティングのヒント

- Cisco Unified Presence に設定するセキュリティ パスワードは、Cisco Unified Communications Manager Publisher サーバで使用されるパスワードと同一にする必要があります。
- 後続の Cisco Unified Presence サーバをインストールする前にサブクラスタに割り当てた場合は、リモートクラスタのユーザがプレゼンス情報を受信できません。サーバがインストールされるまで、プレゼンス機能は停止します。

- 一部のオペレーティング システム機能を使用するには SMTP サーバの設定が必要です。SMTP サーバは、Cisco Unified Operating System のインターフェイスまたは CLI を使用して、後で設定することもできます。
- Cisco Unified Presence インストールで複数のサーバを導入する場合は、Cisco Unified Presence でマルチノード機能を使用する必要があるため、ハードウェアにマルチノード機能との互換性があるかどうか確認してください。Cisco Unified Presence の新規インストールまたはアップグレードのどちらでも、この作業が必要です。特定のマルチノードの導入戦略、および高可用性を実現するための推奨事項については、『*Deployment Guide for Cisco Unified Presence*』を参照してください。

#### 関連項目

- 「基本インストールの設定」(P.4)

#### 次の手順

- 「インストール後のチェックリスト」(P.5)

## インストール後のチェックリスト

Cisco Unified Presence クラスタ内にインストールする各サーバで、次の表の順に示したタスクを実行します。



注意

ただし、後続の Cisco Unified Presence サーバをインストールする前に、Cisco Unified Presence パブリッシャ サーバに対してインストール後のチェックリストを実行したことを確認してください。

#### 開始する前に

- Cisco Unified Presence パブリッシャ サーバで、インストール後の導入ウィザードを実行し、Cisco Unified Communications Manager パブリッシャのアドレスおよび AXL パラメータを設定します。
- Cisco Unified Presence の新規インストール直後に、システムはデフォルトで 90 日間の評価モードになります。これは評価用の試用期間です。この期間中は次の操作が可能です。
  - 組織に Cisco Unified Presence サーバのライセンスがなくても、このサーバの使用または「実行」が可能
  - この組織内のユーザで、Cisco Unified Communications Manager にすでに設定されているユーザは、Cisco Unified Presence にアクセスが可能で、Cisco Unified Personal Communicator を必要なユーザ ライセンス (DLU) がなくても使用できるように設定できる

インストール後のタスク	特記事項
評価用の試用期間が終了する前、または終了後に、Cisco Unified Presence を実稼動モードに移行するには、あらかじめ取得してある Cisco Unified Presence サーバ ライセンス ファイルをアップロードしてください。	Cisco Unified Presence の管理ページで、[システム (System)] > [ライセンス (Licensing)] > [ライセンス (License)] > [ファイルのアップロード (File Upload)] の順に選択します。
Cisco Unified Communications Manager プレゼンス ゲートウェイを設定します。	Cisco Unified Presence の管理ページで、[プレゼンス (Presence)] > [ゲートウェイ (Gateway)] の順に選択します。

インストール後のチェックリスト

インストール後のタスク	特記事項
<p>Cisco Unified Communications Manager パブリッシャ サーバで Cisco Unified Communications Manager を実行している場合は、次の作業が必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Cisco Unified Communications Manager で SIP パブリッシュ トランクを設定する</li> <li>• Cisco Unified Presence で SIP パブリッシュを有効にする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Cisco Unified Communications Manager で SIP パブリッシュ トランクを設定する方法については、『<i>Deployment Guide for Cisco Unified Presence</i>』を参照してください。</li> <li>• Cisco Unified Presence で SIP パブリッシュを有効にするには、Cisco Unified Presence の管理ページで [プレゼンス (Presence)] &gt; [設定 (Settings)] の順に選択します。</li> </ul>
<p>クラスタに後続の Cisco Unified Presence サーバを追加する場合は、Cisco Unified Presence パブリッシャで後続の各サーバをサーバとして設定した後で、サーバをインストールしてください。</p> <p><b>(注)</b> すべてのサーバを一度に追加できません。たとえば、パブリッシャを含めて 6 台のサーバが存在するマルチノードクラスタをインストールする場合は、Cisco Unified Presence システム トポロジに、5 台の後続サーバを同時に追加できます。</p>	<p>Cisco Unified Presence の管理ページで、[システム (System)] &gt; [トポロジ (Topology)] の順に選択します。</p>
<p>システム トポロジ内のサーバにユーザを割り当てます。</p>	<p>ユーザの割り当ては、Cisco Unified Presence の管理ページのサービス パラメータとして自動的に有効になります。ユーザの自動および手動の割り当ての詳細については、『<i>Deployment Guide for Cisco Unified Presence</i>』を参照してください。</p>
<p>次のような、必要な Cisco Unified Presence サービスを起動します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Cisco UP SIP Proxy</li> <li>• Cisco UP Presence Engine</li> <li>• Cisco UP Sync Agent</li> </ul>	<p>Cisco Unified Serviceability で [Tools] &gt; [Service Activation] の順に選択します。</p>
<p>Cisco UP XCP Router サービスで Cisco Unified Presence がオンになっていることを確認します。</p>	<p>Cisco Unified Serviceability で、[Tools] &gt; [Control Center - Network Services] の順に選択します。</p>

インストール後のタスク	特記事項
バックアップを設定します。 毎日必ず Cisco Unified Presence をバックアップしてください。	ネットワーク上で Cisco Unified Presence をバックアップするには、Secure File Transfer Protocol (SFTP) サーバへのアクセスが必要です。
クラスタ ID を確認します。	<p>複数の Cisco Unified Presence クラスタを導入している場合は、個々のクラスタに固有のクラスタ ID 値が必要です。Cisco Unified Presence はこのクラスタ ID 値を使用して、RTMT ツールで送信されたアラート通知のソース クラスタを識別できます。</p> <p>インストール時に、システムは固有のクラスタ ID を Cisco Unified Presence パブリッシャ ノードに割り当てます。システムはクラスタ ID を配布して、クラスタ内のすべてのノードが同じクラスタ ID 値を共有できるようにします。</p> <p>Cisco Unified Presence の管理ページで、[プレゼンス (Presence)] &gt; [設定 (Settings)] の順に選択し、クラスタ ID の表示または設定を行います。</p>

#### トラブルシューティングのヒント

Cisco Unified Presence サーバを使用する前に、Cisco Unified Presence Sync Agent がアクティブになるまで待つ必要があります。

#### 関連項目

- Cisco Unified Presence のライセンス モードの詳細については、『*Deployment Guide for Cisco Unified Presence*』を参照してください。
- RTMT ツールの詳細については、『*Serviceability Configuration and Maintenance Guide for Cisco Unified Presence*』を参照してください。次の URL で入手できます。

[http://www.cisco.com/en/US/products/ps6837/prod\\_maintenance\\_guides\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/ps6837/prod_maintenance_guides_list.html)

■ インストール後のチェックリスト



# APPENDIX A

## インストール準備チェックリストと設定

- 「インストール準備チェックリスト」 (P.1)
- 「フィールド定義：インストール準備チェックリスト」 (P.5)
- 「RAID および BIOS 設定」 (P.8)
- 「Cisco Unified Presence の管理ページにおけるアクセシビリティ設定」 (P.9)

### インストール準備チェックリスト

Cisco Unified Presence をインストールする前に、クラスタ内でインストールする各サーバの情報を収集し、作業中に参照できるようにそのデータを印刷してください。表 1 を使用して、必要な情報を記録します。表の最後のカラムは、インストール後にフィールドを変更できるかどうかを示しています。変更できる場合は、オペレーティング システムの管理インターフェイスまたはコマンドライン インターフェイス (CLI) のどちらで変更できるかを示しています。

#### 開始する前に

- Cisco Unified Presence サーバが複数存在する場合は、この表をコピーして、サーバごとのエントリを個別の表に記録してください。
- 値は必ず正確に記入してください。一部のフィールドはインストール後に変更できません。変更するには、ソフトウェアの再インストールが必要です。記入する必要がある値が不明な場合は、この表の次に記載されたフィールドの説明および使用時の推奨事項を参照してください。
- 一部のフィールドは任意です。設定に不要な場合があります。たとえば、SMTP ホストの設定は省略できる場合があります。

表 1 設定データ

設定データ	入力する値	インストール後に入力値を変更できるか
管理者のログイン		不可能
管理者のパスワード		可能 CLI : <code>set password admin</code>
アプリケーション ユーザのユーザ名		可能 CLI : <code>utils reset ui administrator name</code>

表 1 設定データ (続き)

設定データ	入力する値	インストール後に入力値を変更できるか
アプリケーション ユーザのパスワード		可能 CLI : <b>utils reset ui administrator password</b>
Cisco Unified Communications Manager パブリッシャのセキュリティ パスワード  (注) 各 Cisco Unified Presence サーバに設定するセキュリティ パスワードは、Cisco Unified Communications Manager パブリッシャ サーバで使用されるパスワードと同一にする必要があります。		可能 初期インストール中に入力したセキュリティ パスワードは、次の 2 つの方法のいずれかで変更できます。 <ul style="list-style-type: none"><li>• Cisco Unified Presence の管理ページにあるインストール後ウィザードでの設定時</li></ul> Cisco Unified Presence の管理ページで、[ システム (System) ] > [ CUCM パブリッシャ (CUCM Publisher) ] の順に選択
国		可能 CLI : <b>set web-security [orgunit] [orgname] [locality] [state]</b>
DHCP		可能 <ul style="list-style-type: none"><li>• Cisco Unified OS の管理ページで、[ 設定 (Settings) ] &gt; [ IP ] &gt; [ パブリッシャ (Publisher) ] の順に選択</li><li>• CLI : <b>set network dhcp</b></li></ul>
プライマリ DNS		可能 CLI : <b>set network dns</b>
セカンダリ DNS		可能 CLI : <b>set network dns</b>
ドメイン		可能 CLI : <b>set network domain</b>
ゲートウェイ アドレス		可能 <ul style="list-style-type: none"><li>• Cisco Unified Operating System の管理ページで、[ 設定 (Settings) ] &gt; [ IP ] &gt; [ イーサネット (Ethernet) ] の順に選択</li><li>• CLI : <b>set network gateway</b></li></ul>

表 1 設定データ (続き)

設定データ	入力する値	インストール後に入力値を変更できるか
ホスト名 (注) Cisco Unified Presence サーバのホスト名を変更する方法については、『 <i>Changing the IP Address and Hostname for Cisco Unified Presence</i> 』を参照してください。		可能 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Cisco Unified Operating System の管理ページで、[ 設定 (Settings) ] &gt; [ IP ] &gt; [ イーサネット (Ethernet) ] の順に選択</li> <li>• CLI : <b>set network IP</b></li> </ul>
IP アドレス (注) Cisco Unified Presence サーバの IP アドレスを変更する方法について、『 <i>Changing the IP Address and Hostname for Cisco Unified Presence</i> 』を参照してください。		可能 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Cisco Unified Operating System の管理ページで、[ 設定 (Settings) ] &gt; [ IP ] &gt; [ イーサネット (Ethernet) ] の順に選択</li> <li>• CLI : <b>set network IP</b></li> </ul>
IP サブネット マスク		可能 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Cisco Unified Operating System の管理ページで、[ 設定 (Settings) ] &gt; [ IP ] &gt; [ イーサネット (Ethernet) ] の順に選択</li> <li>• CLI : <b>set IP</b></li> </ul>
Cisco Unified Presence パブリッシャ ノードのホスト名 (注) Cisco Unified Presence サーバのホスト名を変更する方法については、『 <i>Changing the IP Address and Hostname for Cisco Unified Presence</i> 』を参照してください。		可能 Cisco Unified Operating System の管理ページで、[ 設定 (Settings) ] > [ IP ] > [ パブリッシャ (Publisher) ] の順に選択  (注) ネットワーク設定の目的で、Cisco Unified Presence パブリッシャ サーバのホスト名を変更した場合だけに適用されます。これを実行する場合は、Cisco Unified Presence 内の後続のサーバで、パブリッシャ サーバの IP アドレスを更新する必要があります。

表 1 設定データ (続き)

設定データ	入力する値	インストール後に入力値を変更できるか
Cisco Unified Presence パブリッシャ ノードの IP アドレス <b>(注)</b> Cisco Unified Presence サーバのホスト名を変更する方法については、『 <i>Changing the IP Address and Hostname for Cisco Unified Presence</i> 』を参照してください。		可能 Cisco Unified Operating System の管理ページで、[設定 (Settings)] > [IP] > [パブリッシャ (Publisher)] の順に選択 <b>(注)</b> ネットワーク設定の目的で、Cisco Unified Presence パブリッシャ サーバのホスト名を変更した場合だけに適用されます。これを実行する場合は、Cisco Unified Presence 内の後続のサーバで、パブリッシャ サーバの IP アドレスを更新する必要があります。
場所		可能 <b>CLI : set web-security</b>
マスター管理者 ID		不可能
MTU サイズ <b>(注)</b> この値は、Cisco Unified Communications Manager サーバで入力した値と同一にする必要があります。値が異なると、インストールに失敗します。		可能 <b>CLI : set network mtu</b> <b>(注)</b> Cisco Unified Presence のこの値を変更する場合は、Cisco Unified Communications Manager の値と同一にする必要があります。
NTP サーバの IP アドレス		可能 Cisco Unified Operating System の管理ページで、[設定 (Settings)] > [NTP サーバ (NTP Servers)] の順に選択
マニュアルの構成		可能 <b>CLI : set web-security</b>
セキュリティ パスワード		可能 <b>CLI : set password security</b>

表 1 設定データ（続き）

設定データ	入力する値	インストール後に入力値を変更できるか
SMTP ロケーション		可能 <ul style="list-style-type: none"> <li>Cisco Unified Operating System の管理ページで、[設定 (Settings)] &gt; [SMTP] の順に選択し、[SMTP ホスト (SMTP Host)] フィールドに IP アドレスまたはホスト名を入力</li> <li>CLI : <code>set smtp</code></li> </ul>
都道府県		可能 CLI : <code>set web-security</code>
時間帯		可能 CLI : <code>set timezone</code>
部署		可能 CLI : <code>set web-security</code>

## 関連項目

- 「フィールド定義：インストール準備チェックリスト」(P.5)
- 『*Changing the IP Address and Hostname for Cisco Unified Presence*』

## フィールド定義：インストール準備チェックリスト

## 開始する前に

インストール準備チェックリストを確認します。

表 2 に、インストール準備チェックリストに記載されているフィールドの詳細を示します。

表 2 フィールド定義

フィールド	説明	使用法
管理者のログイン	管理者アカウントに割り当てる名前を指定します。	名前は一意にする必要があります。小文字、英数字、ハイフン、アンダースコアを使用できます。先頭は小文字の英数字にする必要があります。 プラットフォームの CLI または Cisco Unified Communications Operating System の管理へのログインに使用するため、この必須フィールドを記録しておく必要があります。 <b>(注)</b> このフィールドはインストール後に変更できません。
管理者のパスワード	管理者アカウントのパスワードを指定します。	このパスワードは、Cisco Unified Communications Operating System の管理、Disaster Recovery System、および CLI へのログインに使用します。
アプリケーション ユーザのユーザ名とパスワード	Cisco Unified Presence 管理用のユーザ名とパスワードを指定します。	このユーザ ID とパスワードは、Cisco Unified Presence 管理インターフェイスへのログインに使用します。
DHCP	Dynamic Host Configuration Protocol; ダイナミック ホスト コンフィギュレーション プロトコル	DHCP を使用してサーバのネットワーク設定を自動的に行うには、[はい (Yes)] を選択します。 [いいえ (No)] を選択した場合、ホスト名、IP アドレス、IP マスク、ゲートウェイ、および DNS 設定の入力が必要です。
DNS 有効	DNS (Domain Name System) サーバは、ホスト名から IP アドレスまたは IP アドレスからホスト名を解決するデバイスを表示します。 DNS フィールドは、DHCP を使用していない場合にだけ表示されます。	DNS サーバを使用しない場合は [いいえ (No)] を入力します。DNS が無効の場合、Cisco IP Telephony ネットワークのすべてのネットワークデバイスに対して (ホスト名ではなく) IP アドレスだけを入力します。 DNS サーバを使用する場合は、[はい (Yes)] を入力して DNS を有効にすることを推奨します。DNS を無効にすると、ドメイン名を解決する機能が制限されます。

表 2 フィールド定義（続き）

フィールド	説明	使用法
プライマリ DNS	Cisco Unified Presence は、ホスト名を解決するとき、最初にこの DNS サーバに接続します。	プライマリ DNS サーバとして指定する DNS サーバの IP アドレスを入力します。ddd.ddd.ddd.ddd のドット付き 10 進表記で IP アドレスを入力します。ddd の値は、0 ~ 255 です（0.0.0.0 を除く）。  DNS を [はい (Yes) ] に設定した場合、このフィールドは必須です。
セカンダリ DNS	プライマリ DNS サーバに障害が発生した場合、Cisco Unified Presence はセカンダリ DNS サーバに接続を試みます。	このオプション フィールドに、セカンダリ DNS の IP アドレスを入力します。ddd.ddd.ddd.ddd のドット付き 10 進表記で IP アドレスを入力します。ddd の値は、0 ~ 255 です（0.0.0.0 を除く）。
ドメイン	このマシンが設置されているドメインの名前を表します。	DNS を [はい (Yes) ] に設定した場合、このフィールドは必須です。
ゲートウェイ アドレス	ゲートウェイは、他のネットワークへの入り口として機能するネットワーク ポイントを表します。発信パケットは、ゲートウェイに送信され、最終宛先に転送されます。	ddd.ddd.ddd.ddd 形式でゲートウェイ IP アドレスを入力します。ddd の値は、0 ~ 255 です（0.0.0.0 を除く）。  ゲートウェイがない場合も、このフィールドに 255.255.255.255 を設定する必要があります。ゲートウェイがない場合、同じサブネット内のデバイスとだけ通信できます。
ホスト名	ホスト名は、ホストを指定する IP アドレスに割り当てられているエイリアスを表します。	ネットワークで一意的ホスト名を入力します。  ホスト名は最大 64 文字で、英数字とハイフンを使用できます。  DHCP を [いいえ (No) ] に設定した場合、このフィールドは必須です。
IP アドレス	このフィールドには、このマシンの IP アドレスを指定します。このネットワークのサーバを一意的に識別します。ネットワークの他のマシンでは、この IP アドレスを使用できません。	ddd.ddd.ddd.ddd 形式で IP アドレスを入力します。ddd の値は、0 ~ 255 です（0.0.0.0 を除く）。  DHCP を [いいえ (No) ] に設定した場合、このフィールドは必須です。

表 2 フィールド定義 (続き)

フィールド	説明	使用法
IP マスク	このフィールドは、このマシンの IP サブネット マスクを指定します。サブネット マスクと IP アドレスで、ネットワーク アドレスおよびホスト アドレスを指定します。	ddd.ddd.ddd.ddd 形式で IP マスクを入力します。ddd の値は、0 ~ 255 です (0.0.0.0 を除く)。 有効なマスクは、左側に「1」のビットが連続し、右側に「0」のビットが連続します。 たとえば、255.255.240.0 (11111111.11111111.11110000.00000000) は、有効なマスクです。 255.255.240.240 (11111111.11111111.11110000.11110000) は、無効なマスクです。
MTU	MTU (Maximum Transmission Unit) は、このホストがネットワークで転送する最大パケットをバイト単位で表します。	使用するネットワークの MTU サイズをバイト単位で入力します。ネットワークの MTU 設定が不明な場合は、デフォルト値を使用します。 デフォルト値は 1500 バイトです。 MTU 設定は、クラスタ内のすべてのノードで同一にする必要があります。
SMTP ロケーション	電子メールの発信に使用する SMTP ホストの名前を指定します。	SMTP サーバのホスト名またはドット付き IP アドレスを入力します。ホストには、英数字、ハイフン、またはピリオドを使用できます。ホスト名の先頭は英数字にする必要があります。 電子通知を使用する場合、このフィールドは必須です。使用しない場合は空白のままにします。
時間帯	現地時間帯とグリニッジ標準時 (GMT) からのオフセットを示します。	時間帯を変更する場合は [はい (Yes)] を選択します。 マシンが設置されている場所に最も近い時間帯を選択します。

## 関連項目

- 「インストール準備チェックリスト」(P.1)

## RAID および BIOS 設定

ソフトウェアのインストール中に、システム インストーラは新しいオペレーティング システムおよび Cisco Unified Presence アプリケーション用に、システム BIOS および RAID を設定します。

インストール中に設定される BIOS 設定および RAID 設定については、次の表を参照してください。インストール中にハードウェア設定プロセスが失敗した場合、IBM サーバおよび HP サーバにあるブート時ユーティリティを使用して、表 3 および表 4 のように、RAID 設定および BIOS 設定を手動で行います。

表 3 HP サーバおよび IBM サーバの BIOS 設定

HP サーバ	IBM サーバ
OS Selection : Linux (新しいモデルには適用されません)	OS Selection : 適用されません
Boot order : CD、C:、Floppy	Boot order : CD、C:、Floppy
Post F1 prompt : Delayed	Post F1 prompt : Delayed
Hyperthreading : Enabled	Hyperthreading : Enabled

表 4 RAID 設定

Cisco MCS 7825 (HP および IBM)	Cisco MCS 7835 (HP および IBM)	Cisco MCS 7845 (HP および IBM)
RAID は適用されません	論理ドライブ : 1	論理ドライブ : 2
RAID は適用されません	RAID タイプ : 1 (1+0)	RAID タイプ : 1 (1+0)
(注) Cisco 7825H1 および Cisco 7825I1 では、SATA RAID が有効、RAID タイプが 1 (1+0)、論理ドライブが 1 です。		

## Cisco Unified Presence の管理ページにおけるアクセシビリティ設定

Cisco Unified Presence の管理ページおよび Cisco Unified Presence ユーザ オプション ページでは、ユーザがマウスを使わずにウィンドウでボタンにアクセスするための機能が提供されています。ウィンドウの任意の場所から次の手順を実行できるため、ユーザはさまざまなフィールドでのスクロールやタブなどの操作が不要になります。

- 「ウィンドウ内でのアイコンへのアクセス」 (P.9)
- 「ウィンドウ内でのボタンへのアクセス」 (P.10)

### ウィンドウ内でのアイコンへのアクセス

Cisco Unified Presence の多くのウィンドウでは、保存するためのディスクのアイコンや追加を示すプラス (+) 記号のアイコンなどが上部に表示されます。

#### 手順

**ステップ 1** Alt、1、Tab の順に押します。

- ステップ 2** カーソルにより一番左側のアイコンが強調表示されます。次のアイコンへ移動するには、再度 Tab を押します。
  - ステップ 3** Enter を押すと、そのアイコンの機能を実行できます。
- 

## ウィンドウ内でのボタンへのアクセス

Cisco Unified Presence のウィンドウの多くでは、[ 保存 (Save) ] ボタンや [ 追加 (Add) ] ボタンなどが下部に表示されています。

### 手順

- ステップ 1** Alt、2、Tab の順に押します。
  - ステップ 2** カーソルにより一番左側のボタンが強調表示されます。次のボタンへ移動するには、再度 Tab を押します。
  - ステップ 3** Enter を押すと、そのボタンの機能を実行できます。
-



## APPENDIX **B**

# Cisco Unified Presence ソフトウェアの最新リリースへのアップグレード



(注)

ご使用の Cisco Unified Presence サーバが新規にインストールした後に評価モードまたは評価終了モードで動作している場合、アップグレードすることはできません。すでに実稼動している Cisco Unified Presence サーバをアップグレードする方法については、『*Cisco Unified Operating System Maintenance Guide for Cisco Unified Presence*』を参照してください。Operating System インターフェイスでソフトウェアのアップグレードを実行するには、[Software Updates] > [Install/Upgrade] の順に選択します。特定のリリース情報については、[http://www.cisco.com/en/US/products/ps6837/prod\\_release\\_notes\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/ps6837/prod_release_notes_list.html) にある『*Release Notes for Cisco Unified Presence*』を参照してください。

Cisco Unified Presence の新規インストール中に [Apply Additional Release] を選択した場合、インストール ウィザードはまず DVD のソフトウェア バージョンをインストールし、次にシステムを再起動します。特定のネットワーク設定パラメータ値およびアップグレード ファイルの場所を入力するように、プロンプトが表示されます。次のいずれかのアップグレード方法を選択します。

- ローカル : CD または DVD からアップグレード ファイルを取得します。
  - SFTP : Secure File Transfer Protocol (SFTP) を使用して、リモート サーバからアップグレード ファイルを取得します。
  - FTP : File Transfer Protocol (FTP) を使用して、リモート サーバからアップグレード ファイルを取得します。
- 「ローカル ディスクからのアップグレード」 (P.1)
  - 「リモート サーバからのアップグレード」 (P.2)
  - 「リモート パッチの取得」 (P.3)

## ローカル ディスクからのアップグレード

### 開始する前に

ローカル ドライブからアップグレードする前に、適切なパッチ ファイルを Cisco.com からダウンロードし、CD または DVD へファイルをコピーする必要があります。パッチ ファイルのサイズが大きいため、ほとんどの場合は DVD にコピーが必要です。

パッチ ファイル名の形式は次のようになります。

UCSInstall\_UCOS\_\*.sgn.iso

**手順**

- ステップ 1** パッチ ディレクトリおよびパッチ名を必要に応じて入力し、[OK] をクリックします。CD または DVD で利用可能なパッチ ファイルがウィンドウに表示されます。
- ステップ 2** このパッチでアップグレードするには [Continue] を選択します。システムの再起動後、[Preexisting Configuration Information] ウィンドウが表示されます。

**トラブルシューティングのヒント**

パッチ ディレクトリの入力が必要になるのは、CD または DVD のルート ディレクトリにパッチが保存されていない場合だけです。

**次の手順**

[「基本インストールの設定」\(P.4\)](#)

## リモート サーバからのアップグレード

**開始する前に**

リモート サーバへの FTP 接続または SFTP 接続でアップグレードする場合、まずネットワーク設定が必要です。

**手順**

- ステップ 1** [Auto Negotiation Configuration] ウィンドウで、次のいずれかの操作を実行します。

目的	操作
自動ネゴシエーションを使用して、ネットワーク インターフェイス カード (NIC) の速度およびデュプレックスを自動的に設定する	[Yes] を選択します。 <b>(注)</b> このオプションを使用するには、ハブまたはイーサネット スイッチが自動ネゴシエーションをサポートしている必要があります。
自動ネゴシエーションを無効にする	<b>a.</b> [No] を選択します。 <b>b.</b> [Duplex Configuration] ウィンドウで、次のタスクを完了します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>- 手動で、NIC の適切な速度およびデュプレックス設定を選択します。</li> <li>- [OK] を選択して続行します。</li> </ul>

**ステップ 2** [DHCP Configuration] ウィンドウで、次のいずれかの操作を実行します。

目的	操作
DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) を使用する	<p>a. [Yes] を選択します。</p> <p>b. リモートパッチの取得に進みます。</p>
サーバおよびゲートウェイの固定 IP アドレスを設定する	<p>a. [No] を選択します。</p> <p>b. [Static Network Configuration] ウィンドウで、次の操作を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 固定ネットワーク設定値を入力します。</li> <li>- [OK] を選択します。</li> </ul> <p>c. [DNS Client Configuration] ウィンドウで、次の処理を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- [Yes] を選択し、DNS クライアント情報を入力します。</li> <li>- [OK] を選択します。</li> </ul>

#### 次の手順

[「リモートパッチの取得」\(P.3\)](#)

## リモートパッチの取得

#### 手順

**ステップ 1** リモートファイルサーバの場所およびログイン情報を入力します。

**ステップ 2** システムがリモートサーバに接続し、利用可能なアップグレードパッチの一覧を取得したら、インストールが必要なアップグレードパッチを選択します。パッチをダウンロードし、展開し、インストールします。その後システムを再起動します。

#### 関連項目

[「基本インストールの設定」\(P.4\)](#)

■ リモートパッチの取得



## INDEX

---

### C

Cisco Unified Presence の管理ページ

ナビゲート [3-1](#)

---

### あ

アクセシビリティ

ボタンおよびアイコンへのアクセス [A-9](#)

---

### お

オペレーティング システム

ステータス [A-5](#)

設定 [1-1, A-5](#)

---

### さ

再起動

システム [2-1](#)

---

### し

システム

再起動 [2-1](#)

---

### す

ステータス

オペレーティング システム [A-5](#)

---

### せ

設定

オペレーティング システム [A-5](#)

概要 [1-1](#)

---

### な

ナビゲート

Cisco Unified Presence の管理ページ [3-1](#)

